

第7回千葉県資源評価検討会議 会議録

- 1 開催日時 平成29年10月31日(火) 午後3時00分～午後5時00分
- 2 開催場所 千葉市ビジネス支援センター(Qiball) 15階 第4会議室
- 3 出席者 <構成員>
県農林水産部水産局漁業資源課長 立岡 大助
県水産総合研究センター次長(資源研究室長事務取扱) 鈴木 広之
東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史
<その他>
県関係職員11名

4 検討事項

- (1) 平成29年度千葉県資源評価票(案)について
- (2) 資源管理計画の評価検証結果について
- (3) その他

5 検討事項の概要及び検討の結果

第7回の会議では、前回会議において検討することとなった資源水準の評価方法及び平成29年度資源評価対象種の選定結果について報告した後、平成29年度千葉県資源評価票(案)及び資源管理計画の評価検証結果について検討した。

【報告】資源水準の評価方法及び平成29年度資源評価対象種の選定について

事務局から第6回千葉県資源評価検討会議において継続検討することとなった資源水準の評価方法並びにクルマエビ及びサトウガイの取扱いについて、事務局と県水産総合研究センターで協議した結果、資源水準の評価方法に関しては4分位による評価に変更し、クルマエビ及びサトウガイの取扱いに関しては資源評価票の作成を見送ることとした旨説明があり、反対意見等はなかった。

(1) 平成29年度千葉県資源評価票(案)について

今回、キンメダイ、コノシロ、スズキ、ヒラメ、マコガレイ、マアナゴ、マダイ、アサリ、クロアワビ、メガイアワビ、サザエ、ダンベイキサゴ、チョウセンハマグリ、イセエビ及びマダコの計15種の資源評価票(案)について検討し、構成員等の意見を踏まえて必要な修正等を行うこととした。

詳細は以下のとおり。

<キンメダイ>

- ・構成員から東京湾漁場の現状、勝浦沖漁場の集計方法及び国の資源評価に関する記

述を別項目に整理すべきである旨の意見があった。

- ・キンメダイの資源評価票については、構成員の意見を踏まえた修正を行った上で、原案どおりとすることとなった。

<コノシロ>

- ・構成員から PCUE の分母である網数について質問があり、担当者から有効営網数である旨の回答があった。
- ・コノシロの資源評価票については原案のとおりとし、一部表現等の修正をすることとなった。

<スズキ>

- ・構成員からまき網の漁獲データについて質問があり、担当者からまき網でスズキを漁獲している漁協からの報告を受けていないため、まき網の漁獲データを資源評価に反映することは現状難しい旨の回答があった。
- ・議長から資源評価結果と漁業者感覚との差について質問があり、担当者から評価方法を 4 分位にしたことにより、前回評価結果よりは漁業者感覚に近い評価結果となった旨の回答があった。
- ・スズキの資源評価票については原案どおりとし、一部表現等の修正をすることとなった。

<ヒラメ>

- ・構成員から資源量の増加と種苗放流の相関について質問があり、構成員から種苗放流の効果より卓越年級群の成長に伴う、漁獲量の増加に起因すると考えられる旨の回答があった。
- ・議長から資源量の増加と東北地震との関係について質問があり、構成員から地震で漁獲対象から外れた資源の成長によるバイオマスの増加が主因であり、資源尾数の増加とは考えがたい旨の回答があった。
- ・議長から地震で漁獲対象とならなかった資源の再生産について質問があり、構成員から再生産成功率に大きな変動がないため再生産は期待できない旨の回答があった。
- ・ヒラメの資源評価票については原案どおりとすることとなった。

<マコガレイ>

- ・マコガレイの資源評価結果については原案どおりとし、一部表現等の修正をするこ

ととなった。

<マアナゴ>

- ・議長から5%の増減で資源動向を判断することについて質問があり、構成員から5%に根拠はないが、経験上、現場感覚と概ね一致しているため考え方としては適切である旨の回答があった。
- ・構成員から、資源動向の計算は傾きを分子に、切片を分母に設定するため、切片が0に近いほど増加傾向になりやすい旨の説明があった。
- ・マアナゴの資源評価票については、原案どおりとすることとなった。

<マダイ>

- ・構成員から評価対象期間について質問があり、担当者から放流効果を測定できる年が1996年からだったためである旨の回答があった。
- ・構成員から資源水準を引き上げている要因の事実確認について質問があり、担当者から市場における調査及び漁獲データにより確認している旨の回答があった。
- ・マダイの資源評価票については、原案どおりとすることとなった。

<アサリ>

- ・構成員から資源量推定の方法について質問があり、担当者から地先ごとの分布密度調査結果を漁場面積に換算し、足し上げている旨の回答があった。
- ・構成員から調査範囲と潮干狩り場の関係について質問があり、担当者から調査範囲に潮干狩り場は含まない旨の回答があった。
- ・議長から盤州干潟における資源動向と漁獲量動向の比較結果について質問があり、担当者から盤州干潟における漁場面積の半分を占める組合の漁獲量データがないため比較できない旨の回答があった。
- ・担当者から三番瀬の資源動向と漁獲量動向は概ね一致するが、富津干潟は潜水器の漁獲量が含まれるため、やや異なる旨の説明があった。

<クロアワビ>

- ・クロアワビの資源評価結果については原案どおりとし、一部表現等の修正をすることとなった。

<メガイアワビ>

- ・メガイアワビの資源評価結果については原案どおりとし、一部表現等の修正をすることとなった。

<サザエ>

- ・マコガレイの資源評価結果については原案どおりとし、一部表現等の修正をすることとなった。

<ダンベイキサゴ>

- ・構成員から九十九里における種苗放流と資源管理の取組について質問があり、事務局から資源管理の取組と考えられる旨の回答があった。
- ・担当者からダンベイキサゴの放流は鴨川から九十九里に移植する移植放流である旨の補足説明があった。
- ・ダンベイキサゴの資源評価結果については原案どおりとし、一部表現等の修正をすることとなった。

<チョウセンハマグリ>

- ・チョウセンハマグリの資源評価結果については原案どおりとし、一部表現等の修正をすることとなった。

<イセエビ>

- ・議長から CPUE が横ばいである一方で漁獲量が減少していることについて質問があり、担当者から積算隻数が減少している旨の回答があった。また、8月の操業が台風でほとんどできていない旨の補足説明があった。
- ・イセエビの資源評価結果については原案どおりとし、一部表現等の修正をすることとなった。

<マダコ>

- ・構成員から CPUE の単位について質問があり、担当者から1隻1水揚である旨の回答があった。
- ・出席者から漁獲盛期と産卵期に関する表現について誤解を招く旨の意見があり、適切な表現に修正することとなった。
- ・マダコの資源評価結果については、原案どおりとし、一部表現等の修正をすることとなった。

(2) 資源管理計画の評価検証結果について

事務局から平成29年度の評価検証対象である資源管理計画の評価検証結果について説明があり、構成員の意見を伺った。

- ・構成員から漁獲対象が変わっている場合の評価を平均単価以外で実施できるように検討した方が良い旨の意見があった。

(3) その他

事務局から今後のスケジュールを説明し、意見等は特になかった。